

# 令和5年度 第4回教育委員会定例会

## 日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和5年7月6日(木)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 堀留 豊
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 川崎 史明
↓		
午後3時50分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 大山 昭
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

## 会議要旨

- 1 開会  
定刻、定足数に達しており、令和5年度第4回教育委員会定例会を開会した。
- 2 令和5年度第3回定例会会議録の承認について承認
- 3 議事  
報告第15号 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について  
報告第16号 垂水市社会教育委員の委嘱について
- 4 その他
- 5 委員並びに教育長及び課長報告
- 6 閉会

## 議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第15号 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について	垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第16号 垂水市社会教育委員の委嘱について	垂水市社会教育委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	

## 議 事 内 容 等

3 議 事	<p><b>報告第 15 号</b> 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について</p>
社会教育課長	垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。
	<p><b>報告第 16 号</b> 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について</p>
社会教育課長	垂水市社会教育委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。
4 その他	<p><b>部活動地域移行の状況について</b></p>
学校教育課長	部活動地域移行の状況について、推進協議会の開催状況や現在の課題について報告を行った。

5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	<p>松ヶ崎小の学校訪問ですが、訪問資料の緻密で細部まで配慮の行き届いた資料にまず感心しました。児童数8名の極小規模校ながら教育活動は大規模校に劣らない内容豊富な活動が年間計画に従って確実に実施されておりました。保護者や地域を巻き込んで実施されており大変いい例が見えたと思います。学力ですが、個々の児童の成長を細かくチェックして、励ましたり、繰り返し実践させたりして、それを全職員で見守り励ましていくといった一連の取組を管理職のリーダーシップのもと、徹底されていると感じました。これだけ成績が安定しているというのは絶えず継続した指導が続いていると思われ、この辺が小規模校の良さが十分に発揮されているものと思います。ただ人数が少ないので、児童のコミュニケーション力やリーダーシップの発揮等の場面を多くつくってやる必要があるではないかと感じました。</p> <p>牛根小の学校訪問ですが、タブレットのキーボード操作やデータの送受信などかなり上達していると感じました。ここも学力優秀な児童がいるので、これこそAIドリルなどを日々の授業でも活用し、個別最適な指導を心がけてほしいと思いました。それから、わが家の家訓、わが家の自慢、家庭学習3か条がありました。家庭で話し合っ、それが1年間学校に掲示され、絶えず子供たちが目にすることで頑張らざるを得なくなると思いました。また、歯磨きの徹底のためのカラーテスターの染めだし指導など、小規模校ならではの実践だと思いますが、こういうところが徹底されていると思いました。牛根太鼓ですが、しっかり定着しているので、これからもずっと続けてほしいと思ったところです。</p>
葛迫委員	<p>オンラインを使っの初めての研修会ということで分科会の入室、進め方など教育委員会の職員の方々のおかげで、自分自身はパソコンを触ることなく、職員の方々から技術指導を受けながら、オンライン研修会に参加できました。</p> <p>最初のグループでは、午後1時45分から3時10分まで「いじめ対策と不登校支援について」の協議でした。岡山県早島町の教育長が進行役となり、山口県平生町の教育委員、私の3人で協議が始まりました。自己紹介から始まったのですが、私以外の方は今年から教育長、教育委員に就任された方でもともと教員職をされていたとのことでした。最初はぎこちない感じで進んでいったのですが、そこは元教員「いじめ対策と不登校支援について」は勤めていた学校や地元のことについて詳しく述べていました。3人での会議ですのですぐ進行役は私に振ってくるという研修会で1時間半という時間がとても短く感じるリモート研修会でした。</p> <p>2つめの分科会は3時30分から4時55分まででした。4名の教育委員と1名の教育長、合計5名で2人増えただけなのになかなか説明するところに行かず、1人の教育委員の方がすぐリモートに慣れていてほとんどし</p>

やべっていました。進行役の方も間の取り方など分からずにすすめていつている状況でした。

今回の研修会で感じたことは「分科会グループ協議に提出する資料を教育委員自らが作成していたのではないのか」と思うほど、内容をきめ細かく整理し、各市町村の教育委員の方々が報告されていました。

私自身、教育委員としてもっと教育現場に足を突っ込み、内容を把握する必要があると感じました。そうでないと現在の教育現場を理解できずに取り残されて、子供たちのことがあまり分からなくなってしまうと思いました。また、教育全体を見ることも必要だが、教育委員が4人いますが、その4人が同じ方向を向く必要も無く、例えば「知・徳・体」のようにそれぞれ専門的な分野で各委員が力を発揮していければと感じました。また、これだけ多様化する教育現場ですが近い将来「A I」の登場が具現化すると先日学校訪問をした牛根地区の松ヶ崎小、牛根小は小規模複式校にこそ「A I」が必要なのかなと、教職員働き方改革が叫ばれる今の時代に必要なアイテムではと思ったところです。

田之上委員

松ヶ崎小と牛根小の学校訪問ですが、両校とも校内は整理され、児童の作品や情報などが見やすく展示されていてよかったと思います。小規模校の利点を生かして、学力や体力テストなどの結果など個別に分析され、苦手克服に努められていることがよくわかりました。また、いじめ等についても全職員が全児童を理解して、みんなで見守っていこうという姿勢が見られました。リモート授業ですが、よい学びのために工夫されていました。また、課題となる点もあるようでしたが、今後ますますいい授業ができるように頑張りたいと思いました。

リモートでの研究協議会ですが、2つの分科会に参加しました。初めてのリモート会議で最初は不安でしたが、機器の準備から操作まで教育委員会の職員のお世話になり、安心して臨むことができました。自己紹介や各委員会の取組の発表の後、協議、質問など進行していただき、活発に議論が進み、あっという間の時間だったように思いました。特にテーマ4地域と学校の連携協働については、基本は大人たちが作るのではなく子供を中心に、子供たちとともに考えるということを何度も口にされて、私も心に残るフレーズでした。それから、コミュニティスクールでも、それぞれの地域性とか実情に沿った活動がされており、学習支援を取り組まれているところが多かったです。放課後の時間や土曜日に、その地域の方や高校生や大学生などOBの方たちが支援ボランティアでやってくださっているところがありました。すごくいいなと思いました。私たちもこれからまたいろいろな情報を参考に各学校、地域を見ながら、垂水らしいやり方を模索していかないといけないということを改めて感じたところでした。

最後に、先日、児童クラブで救命講習を受けました。夏休み中に学校のプールを利用させていただく関係でどうしても受ける必要がありました。何も無いことが一番ですが、いざという時のために講義を受け、実技を学びました。大変有意義な学びであったと感じています。

福里委員

6月24日、佐世保音楽隊の演奏を聞きに行きました。初めて行きましたがすごく迫力があり、なかなかそういう機会がなかったので、すごく感動しました。娘はおもてなし隊の仕事をさせてもらいました。初めての活動で最初は何をするのかと緊張していたようです。受付でパンフレットを渡すばかりでしたが、そのパンフレットを両手で渡していたので、帰ってから聞いてみると、パンフレットは必ず両手で渡すようにと教えてもらっていたそうです。団長ということで、最後に花束を渡す大役もいただいておりますが、その花束を渡す向きもあることを教えてもらっていたみたいでそういう細かいことまでを教えてくださいましたこと、すごくありがたいなと感じました。花束を渡すだけでしたが、本人はとても緊張していたみたいでしたがお友達に凄かったねと言われて喜んで自信に繋がったんじゃないかなと思いました。すごくいい経験になったと思います。

松ヶ崎小と牛根小の学校訪問は、小さな学校だけど大きな学校にも劣らない教育をされていて、魅力的だと感じました。いろいろな活動等をして、大きな学校では、味わえない達成感とか自信が得られるんじゃないかと思いました。一方では、小さい学校は人数が少ないので友達が少ないということがあります。友達の関係はすごく大事なことだと思います。

最後ですが、PTAの参加率が悪いそうです。もう少し、学校が工夫されたりすればと思いますが何かいい方法はないのかと思いました。

田原委員

オンライン研修会でのいじめ対策不登校支援ですが、最初の報告では、コロナの休校以降、不登校や保健室登校などが増えているとか、ゲームなど家で過ごす時間が増えて生活するリズムが崩れているのではないだろうかといった意見があり、また、感染の危険もあるから学校には行かせないという考えの親もいるなど、親の考えに影響されているといった報告がありました。それから家の教育方針かと思いますが、自然の中で伸び伸びと育てたいとか、子供の教育は親で何とかするとか、そういう親もいるようで、どこの市町村も親の考えを変えることに苦労しているようでした。支援としてはまずSSW、ICTを活用して別室登校や、地域の支援センターへの登校などをやっているが、なかなか毎日登校させることに結びつかない状況のようです。その中で高知県のいの町の取り組みが際立っていました。高知県は不登校発生率が全国ワースト1位で中でもいの町が高かったということでした。私のグループにいの町の教育長がおりましたが、県の副教育長で県にいた時から温めていた案をいの町にやってきて、教育長として改革に乗り出したということでした。この取組ですが、伊野中学校に町の8割ぐらいが行くそうですが、ここに校内サポートルームを作って、そこに担当教員、加配教員を置いて個々の生徒に応じた支援をこの教員が進めており、それからSCやSSWを含めた支援会もやっているとのことでした。また、この学校にやってくる3つの小学校がありますが、この小学校に担当の不登校対策教員がいて、それらの取り組みをコーディネートする教育委員会の職員がいるということでした。この職員はこれを専門でやっている退職校長のような人だそうです。不登校は学年が進むほど解決が難しくなってくる。中学校では学校の中に、居場所を作って、そこに担

当の先生がいて、生徒一人一人の学力や個性に応じてきめ細かく支援していくことが大事だと思いました。日常的な不登校未然防止の取り組みが一番大事であるが、小学校から何年も不登校を続けている子供にとっては、このようなサポートルームの開設が必要ではないかと思いました。垂水中央中学校でも加配教員か学習支援員に不登校担当教員になってもらい、AIドリルを使つての学力支援とか、教科によってオンライン授業に参加させることなどができそうですが、やはり世話をする力がある人、一人一人を細かく面倒が見られる人、そういう人が必要なのかと思いました。今後、それに向けて取り組んでいければという一つの案として思いました。

次のテーマの地域と学校の連携協働ですが、京都府八幡市、広島県三原市のコミュニティスクールの取組が話題となって話し合いが進められました。垂水市は学校運営協議会に代わり学校応援団活動をそれぞれ引き継いでいるが、今一、学校と地域の関係がはっきりしていない点があると感じています。そんな中で広島県三原市の学校運営協議会と地域学校協働本部を一体的に推進するという考え方は、すごくすっきりしていました。学校運営審議会で、その校長がこんな学校を作りたいので、地域はこんな協力をお願いできませんかとお願いすると、地域学校協働活動の推進委員、コーディネーターがそれを持ち帰って、地域の学校協働本部で協力できる活動を話し合っ、参加できるボランティアを募るということでした。垂水も同じことをやっていますが、学校運営審議会で、校長がもっと強く地域への要望を出して、地域の協力を得て、地域と学校が一体となった学校経営を進めていけばよいと思いました。そのために、まずは学校運営協議会の目的を協議会委員がしっかり認識すること。また委員も充て職で変わるのではなく、何年か固定した人物を選ぶべきではないだろうかという意見もありました。

最後にこのオンライン研修に参加してみた感想ですが、会議に参加するための機器の接続や準備すべき資料などは、教育委員会の先生や、職員の方々がすべて準備くださったので、何ら心配はありませんでしたが、ただ、用意した資料の説明まではうまくできたんですけど、次の意見交換の場でみんなの意見を聞いて、うちではこんなんやっていますとか、そんな上手な発言ができず、悔やまれました。全国的には同じような規模のところ、工夫して成果を上げている取り組みというのが必ずあるような気がします。こういうことがわかったということ。そして、そういうのを知るためにこんな場に、積極的に参加していかないといけないということを今回、学ばせていただきました。

教育長

学校訪問等、ありがとうございました。両校とも小規模校のよさを存分に発揮した学校運営がなされておりました。その中で小さな学校ほど自己肯定感を高める、そういう取り組みをされており、そのことはリーダー制、或いはコミュニケーション力の向上に必ずや繋がっていくことであるので、そのことを意識しながら進めて欲しいということが一つ。二つ目は、子供と教師の関係のよさ、距離感が近いという部分。そういう関係性のよさ、ほどよい距離感のとり方を教師も意識する必要があるということも考えたところでした。また、授業を見せてもらって、いろんなタブレッ

トの使い方があり、また、そういう中で、交流の場面、発信の場面もありました。学びを深めるという使い方にとろとろ垂水はシフトしていく必要があります、今年交流と発信をキーワードにしていますが、その質をどう高めていくか、このことを教育委員会としても学校と連携しながらチャレンジしていきたいと思うことでした。

最後に委員の皆様方の研究協議会を見て感じたことですが、やはり必ずトラブルがあります。G I G Aスクールも同様です。そのためにいわゆる支援員を配置して、トラブルへの備え、また一方で迅速な対応をとっております。やはりトラブル対応も教師自身ができないといけない時代になっています。そこまでの取り組みを求めてもいいのかなと私自身思っています。もうそろそろ支援員頼りではなく自分自身でどうやって解決していくのかということだと思います。それから、委員の皆さんもリモート会議でタブレット画面のテンポのずれなどを体験されたと思いますが、子供たちの今のタブレット学習を追体験するという意味でもよかったと思っております。これからおそらくG I G Aスクールを見るときに観点が変わってくるのではという気がします。また、中身で言うと規模や実態が違うところまで違うのかという場面にも遭遇します。ですが、一方でやっぱり垂水のよさ、垂水の教育のよさもあったのではないかと思います。ただ、改善の余地がありますので、子供たちのためということで今後しっかりと考えていかなきゃいけないと気持ちを新たにすることでした。またこういう機会があった時には私も次は参加したいと思っております。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長  
国体推進課長

6月10日から7月6日までの主な行事等について各課長が報告。  
併せて、7月7日から8月8日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会